

新図書館の位置づけの検討

1 泉大津市の図書館を取り巻く状況

○公共図書館の潮流

①図書館の多機能化

- ・ 飲食ができる図書館や賑わいを創出する図書館など、従来の公共施設からの脱却を模索する図書館が増えている。
- ・ 図書館の集客力をいかに周辺に波及させるかという視点も重要となっている。

②ICT化の進展

- ・ 貸出返却の自動化、セルフサービス化、各種システムの導入が進められている。
- ・ ICT化が急速に進展しており、その対応が求められている。

○泉大津市における取組

- ・ 現行図書館は、座る場所が少なく、開架スペースも少ないなどが課題となっている。
- ・ 学校図書室の開放など、地域に根差した取り組みが進められつつある。
- ・ 読書量日本一を目指した各種取組を実施している。

○市民ニーズ

- ・ 現在の図書館の満足度は4割弱であり、不満の理由としては、図書が少ない、行きにくい場所にある、座る席がないなどが多くなっている。
- ・ 市外の図書館を利用している割合は約3割で、和泉市や高石市の図書館を利用している割合が高く、その理由としては、新刊や雑誌が充実している、開館時間が長いなどがあげられている。
- ・ 新しい図書館に求める機能については、「行きやすい場所にあり、目的がなくても気軽に立ち寄れる」、「話題の本や専門図書、雑誌等が充実している」、「開館時間が長く、ゆっくりと滞在できる」が多くなっている。

2. 新図書館の位置づけについて

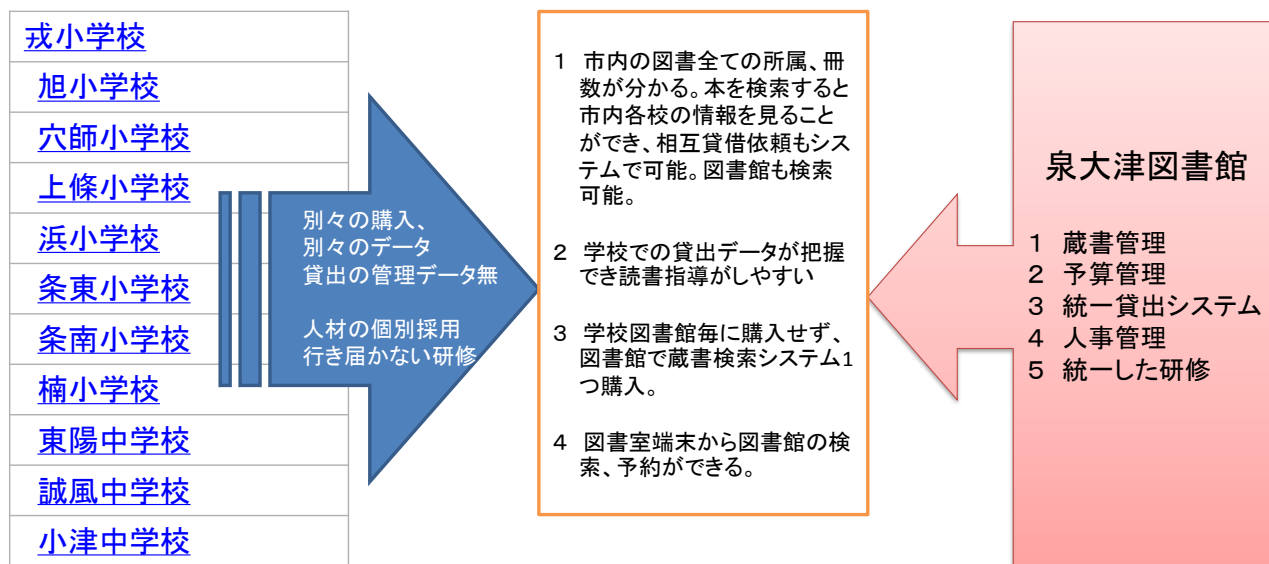
- ・泉大津市は市域も狭くコンパクトであり、地域によっては隣接する自治体の図書館がより近い状況にあり、隣接する他自治体の図書館サービスで補完できている現状がある。
- ・また、学校図書室の開放など、地域に根差した取組が展開されていることから、新図書館（駅前）1館と学校図書館の連携構想（小学校8、中学校3）を今回の基本計画で記述する。

①図書館システムの統合、人材確保、配置などの統合による一体管理への動きが必要

（今後学校の改修などに合わせて、配置や動線を考慮）

②広域連携、サービス補完

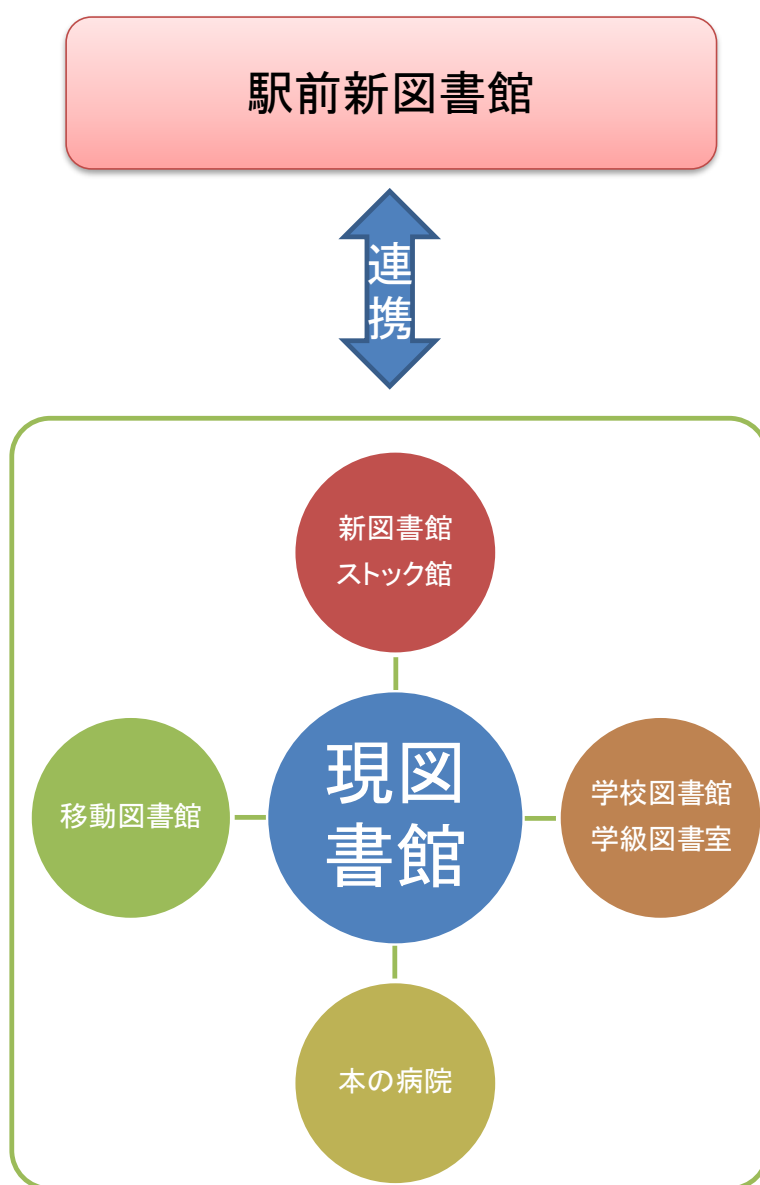
分館建設などの必要性は低く、地域に存在する小学校、中学校の図書室及び社会教育施設との連携によるサービス向上を目指すことが重要である。



3. 新図書館と現行図書館との役割分担

駅前に新図書館が整備されることに伴い、当面の間の活用案として、現行図書館との役割分担を以下のように設定する。

項目	駅前図書館	現図書館
資料	全書籍開架し、閲覧可能	一部閉架書庫ストックヤード
サービス・機能	貸出他、新機能導入	本の病院、学校図書館の中継
人員	専門人材配置	ボランティア等



※当面の間の活用案